

【記者からの質問】 1月23日

< 県立大学について（その1） >

読売新聞／山口先生に期待することは？

知事／山口先生は人間味あふれ、学生を大切にしながら発展系で何かを作り上げることにふさわしい方。また、現状に甘んじることなく、常に前を向いていただける方だ。

今後、県立大学の構想には様々な議論があるだろうが、時代に合わせて発展させられる方だと思う。開学は、早くても5年後。長いお付き合いができるかと確信した。

読売新聞／専門家チームに入る人は、開学後も運営に携わる人との意向だった。山口先生は、学長候補なのか学部長なのか。

知事／長くお付き合いできる方にリーダーをお願いした。今後、山口先生と相談し、具体化プログラムを進めるメンバーを選出する。メンバーの皆さんには、開学以降も関与していただけたらと思う。

現時点で内定していることはないが、未永くパートナーであってほしい。

読売新聞／残る人選や初会合など、年度内のスケジュールの見通しは？

知事／山口先生は現職であり、今後のスケジュールは相談しながらになる。1月中旬に、来佐いただけると聞いている。そこで、スケジュールが見えてくるだろう。

< 九州新幹線西九州ルートについて（その1） >

読売新聞／先日、国交省の鉄道局次長と南里副知事の意見交換会が行われた。報告の内容への受け止めを。

知事／国からは、特に新しい点はなかったと聞いている。副知事は、議論を深めるためにアセスルートを白紙にして、地元で一から議論し合意形成を図る必要があると提案した、と聞いた。

もともと新幹線は、佐賀県と長崎県がフリーゲージトレインで合意したから手を挙げた。国がフリーゲージトレインの開発を断念したという原点を大切にすべきだと思う。今後の議論を注視したい。

< 国スポ・全障スポについて >

時事通信／国スポ・全障スポが、佐賀県の発展にどうつながると期待して取り組んでいるのか。

知事／国体・全障スポ開催を一過性のものにしてはいけない。大きな経費を投資するならば、開催後に生かす形にしなければならない。ハードの投資は SAGA アリーナに集中させ、全体としては先催県よりコンパクトな財政負担になるよう計画を組んだ。

かねてから、アスリートのセカンドキャリアに寄り添いたいと考えていた。スポーツビジネスやスポーツホスピタリティを成功させる。そこに投資し、スポーツのすそ野を広げる。引退したアスリートが指導者として後進を育てる SSP 構想を完成させたい。

大谷選手やサッカー日本代表の活躍があり、スポーツで感動できる環境が醸成した。その感動を元気に転換し SAGA2024 を迎えたい。

<アスリートへの盗撮被害の対策について>

時事通信／アスリートへの盗撮被害が問題になっている。条例で規制する動きもある。選手が安心して競技に臨める対策は？

知事／盗撮への対応を議論した結果、ソフト的に盗撮ができない環境を作ることにした。具体的には、周辺を巡回し声掛けをする。条例で規制する方法は、寂しすぎる。

<オスプレイについて>

時事通信／オスプレイの事故に関して、防衛省から新たな情報提供があったのか。

知事／米軍や防衛省からの情報はない。今後とも注視していく。

<県立大学について（その2）>

佐賀新聞／県立大のリーダーを決めたプロセスを教えてほしい。

知事／山口先生と直接会ったのは9月。意見交換の場で、私たちが理想としていた人物像と一致し、ともに進める気持ちになった。庁内の大学チームのメンバーも山口先生を信奉し、何ら問題ない。

<自民党県議団の処分について>

佐賀新聞／県議会で執行部予算案に賛成する形をとった自民党の議員が、会派内で処分を受ける結果になった。受け止めを。

知事／自分で考え判断することが、政治家にとって大切だと常々思っている。自民党の11人の皆さんが、自らの信念で判断し、意思を表明されたことに敬意を表したい。自民党の11人の皆さん、県民ネット、公明党の皆さんには、再議にご賛同、ご理解をいただき感謝する。

地方議会は、知事と議員が自らの信念、判断に基づいて意思を表明することが期待されていると思う。特に、県立大学は地域特有の課題。一人ひとりが、どう思うのか議論する方がよい。党議拘束をかけるのは、地方自治にはなじまない。

<政治資金規正法について>

佐賀新聞／政治資金パーティのあり方や政治資金規正法の改正について知事の考えを聞きたい。

知事／この問題は、政治家が自分で考えないといけない。「これは、こうやって処理するもんだ」という「もんだ症候群」で処理していたようだ。公職選挙法や政治資金規正法の考え方を分かっていない。分かっていたら、自らがチェックしたくなるし、秘書や事務職員に「全部記帳する」と言うはず。費用はすべて記帳し、説明できるようにする。それが、政治家にとって一番大切なところ。政策の前に基本を押さえるべき。

政治家として、ひとくくりに見られるのは心外。

佐賀新聞／政治資金規正法を変えた方がいいとお考えか。

知事／30年前のリクルート事件で、政治改革に携わった。選挙にお金がかかるという理由で政党交付金の制度を創設した。また、同じ政党同士が戦うからお金がかかると、小選挙区制に変更した。当時、問題の核心から制度の問題にすり替わっていると感じた。政治家教育という原点をやらずに、法を改正し罰則を強化した。連座制を検討してもいいと思うが、政治家本人が「もんだ症候群」で人に任せてしまっている。

政治家のモラルが試されているし、国民も政治家を選ぶ目をもたなければならない。制度を変えるしか方法がないなら、制度改正をして民主主義の発展に努めるべき。

<県立大学について（その3）>

日本経済新聞／県立大学の専門家チームは、あと何人ぐらいで、いつまでに決めるのか。また、専門家チームが取り組む具体策を教えてほしい。

知事／人の選出は、これから山口教授とスタッフが議論して進めていく。山口教授は数学者で、データサイエンスの経験者。大学の構想は文理融合型なので、経営学の観点が重なっている分野。山口先生と相談しながら考えたい。

<九州新幹線西九州ルートについて（その2）>

毎日新聞／年末の国との新幹線ルートの協議で、国は従来のアセスルート、南里副知事は新鳥栖を起点に空港周りを提示した。党内で浮上した新ルートへの考えを聞きたい。

知事／複雑な方程式で変数も多い問題。答えを導くのは容易ではない。

現状システムでの財政負担は、長崎の2.5倍となる1400億円。この莫大な負担を含め議論していかなければ判断を間違える。1400億円もかかれば、財政計画を全く組めなくなる。南ルートにしたとしても、財政問題や在来線問題といった変数が残る。

フリーゲージだったからアセスルートで合意した。にもかかわらず、国がアセスルート一択から動かないのはいかなものか。

敦賀と関西圏を結ぶ北陸ルートの乗換え問題や北海道新幹線の問題もある。資材高騰の中、全国的な新幹線問題の行く末を含め議論していく。

毎日新聞／国のアセスルートと空港ルートの折衷案として、間を通す可能性はあるのか。

知事／いろんな変数があるので、可能性はゼロではない。胸襟を開いて議論をする必要がある。ただ、様々な意見があり、結論に至るのはかなり難しいだろう。

西日本新聞／今後、長崎県のトップ同士で協議する意向はあるのか。また、空港北側を通り久留米方面につなぐ新ルートへの知事の考えを聞きたい。

知事／1月18日、南里副知事が長崎県の馬場副知事と面談した。南里副知事からの報告では、長崎から希望があればいつでも対応すると伝えたとのこと。長崎と佐賀の合意が原点なので、いつでも協議する準備はある。

久留米方面の新ルートは一つの考え方。それも含め、みんなで議論したい。

<佐賀玉屋について>

西日本新聞／新しい佐賀玉屋に期待することは？

知事／県内に百貨店がなくなる県が増えている厳しい状況の中、玉屋が90周年を迎え、この度の事業継承では、屋号が存続でき百貨店業も継承できた。関係者の皆様の尽力に敬意を表したい。

京都の不動産会社から来るリーダーは、佐賀大学の卒業生だと仄聞した。地域密着型の百貨店になるよう支援したい。

様々な事業を手掛ける会社とのこと。複合的に連携しながら進めたい。

<災害時安否不明者の氏名公表について>

S T S／島根県と鳥取県が、安否不明者の氏名公表を本年度中に見直す方針を表明した。佐賀県の現状と見直しの意向を教えてほしい。

知事／能登半島地震のように倒壊家屋があれば氏名を公表する。災害対応では、まずは命の問題。時間の経過とともに避難所の問題に移っていく。

最初の3日間で、どれだけの人を救出できるかが大切。佐賀県なら、すぐにヘリを飛ばし現状確認。空振り覚悟で、自営できる自衛隊、警察、消防の実動部隊に、陸海空から現地に入ってもらい、人命救助に充てる。

災害対応では、トリアージをしなければいけない。亡くなるのが分かっている人より、生きる可能性がある人を優先する。普段なら、一人ひとりを助けるが、あれだけ多く倒壊している場合は、優先順位が必要になる。確認できる場所、人の声がする場所、多く人が埋まっていそうな場所を優先せざるを得ない。

119番、110番では対応してもらえない。誰がどこにいるかは大事な情報。個人情報よりも、1人でも多くの人を助けるために氏名公表する。

平時に災害時の状況をイメージできないのが災害対応の難しさ。亡くなってしまった人の願いや声はもう届かない。だから、少しでも多くの命を助けるために議論し、みんなできり合いをつけ、共有していきたいと考えている。